

# 01

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

## 第1回地域夢・未来カフェ in 牧の台

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため「第1回地域夢・未来カフェ in 牧の台」が開催されました。

**日時：2012年11月15日（木）10:00～12:00**

**場所：第1自治会館**

**参加人数：市民18名+市WGメンバー3名**

### 当日のスケジュール

- 10:00 開会、あいさつ（総合政策部長）
- 10:20 昨年度懇談会の概要について
- 10:35 フォーラム及びテーブルワークの概要について
- 10:55 イントロ（川西クイズ）
- 11:00 テーブルワーク①『地域の課題について』
- 11:30 テーブルワーク②『実現に向けた取組について』
- 12:00 閉会

### あいさつ・昨年度懇談会の概要について

大和自治会の八木下会長からのあいさつの後、総合政策部の本荘部長より、地域分権制度の構築に向けての説明がありました。地域分権が推進される社会的背景や必要性、制度の概要とともに、今年度策定される第5次川西市総合計画での位置づけについても触れられました。

また、これから3回にわたり開催される地域夢・未来カフェの目的や昨年度実施された地域別懇談会との関係などについても説明がありました。



### 地域分権制度とは

市の持続的な発展を図っていくためには、行政の力だけでは限界があります。そこで、これまで行政が主導して担ってきた地域の課題に対し、地域住民自らがその解決にあたるために、一定の権限や財源を地域へ移譲する制度です。

### フォーラム及びテーブルワークの概要について

キックオフイベントとして9月15日に開催された「かわにし夢・未来フォーラム」の報告がありました。地縁型組織とNPOやボランティアなどのテーマ型組織の連携の必要性、面識社会の回復の重要性、市職員の果たすべき役割などについての意見交換が行われたとの説明がありました。

次に、カフェでのテーブルワークの方法についての説明がありました。まず、昨年度実施された懇談会の結果をふりかえり、「地域の課題」や「地域のありたい姿を実現するための取組」の内容を共有しました。その上で、2種類の色のシールを使って投票しながら、特に重要な課題や取組をみんなで議論し、検討していくという流れの説明がありました。

テーブルワークに入る直前には、イントロダクションとして、日本全体や川西市の状況についてのクイズが出題されました。



## テーブルワーク

後半は、まず 3 つのグループに分かれてテーブルワークを行い、さまざまな意見を出した後に、全体で特に重要な課題と取組を投票しました。高齢者支援については、課題と取組両方で意見が多くなっており、地域のつながりなどについては重要な取組として考える人が多くなっています。



### ◆地域の課題について（重要だと思う課題を1人3点選ぶ）

地域の課題	点数	追加された主な意見
身近な買い物環境の維持、魅力向上	11	・駅前のシャッターが下りている ・商店そのものも高齢化 ・元気がない
一人暮らし高齢者の生活、介護者の苦勞	17	・地域が広く、足がない ・バス停までが遠い ・商品を宅配するアイデア
暮らしの中の安全	7	・世代間交流 ・毎月会話する機会が必要 ・小地域単位での活動の充実
みんなが気持ちよく暮らすためのマナー	7	・認知症高齢者の徘徊の問題 ・下校時の子どもの見守り
空き家や空き地の管理不足による環境悪化への対策	8	・防犯灯をブルーやLEDに ・道路のでこぼこや白線が消えかけている
その他	11	・駅周辺の坂道での自転車のマナー ・高齢者はゴミ当番を外してはどうか ・公園の数が多く、全部地域で管理は無理 ・公園を利用しようプロジェクト ・活動の人材不足 ・子ども会に元気がない ・子育てにやさしいまち など

### ◆地域のありたい姿を実現するための取組について（重要だと思う取組を1人5点選ぶ） ※0点の項目は削除

実現に向けた取組	点数	実現に向けた取組	点数
<b>●地域住民が世代を超えてつながる暮らし &lt;25&gt;</b>			
笑顔で挨拶や声掛け運動をする	12	民生委員として今まで以上に見守りを強化する	1
自治会の組織を、向こう三軒両隣のグループに	4	地域活動に若い人を当て込む分野をつくる	4
向こう三軒両隣の話し合い	1	世代を超えて気軽に集える場所作りや、イベント企画を進める	1
地域のリーダーをつくる	2		
<b>●高齢者が生活しやすい暮らし &lt;16&gt;</b>			
イベントで交流機会をつくる	4	認知症徘徊防止 SOS ネットワークの確立	1
お年寄りの昔の体験談を、子ども達に話す機会をつくる	6	1人ひとりが高齢社会、認知症についての知識を高める	1
丁目毎に地域で見守るネットワークをつくる	2	若い人の受け入れを積極的に取り組む	2
<b>●子どもが健やかに育つ暮らし &lt;10&gt;</b>			
子ども達に注意する怖い大人も必要	1	今あるグループが連携して子育てシステムを構築	3
大人からも積極的に挨拶をする	1	子どもの集まる場所の提供	2
大和第2自治会館で、年寄り若いミセスの交流のためのふれあい広場の設置	3		
<b>●魅力的な地域づくりをする暮らし &lt;4&gt;</b>		<b>●気持ちのゆとりとやすらぎがある暮らし &lt;2&gt;</b>	
商店街活性化に積極的に取り組む	4	自分の家の掃除をするとき、もう少しだけ周辺も清掃する	2
<b>●安全、安心、快適に暮らせる暮らし &lt;2&gt;</b>			
道路標識やカーブミラーを配置して守る	1	一人ひとりの防犯、防災意識を高め、再確認する	1
<b>●その他 &lt;7&gt;</b>			
コミュニティバスを走らせる	2	公園のトイレを洋式にする	2
幼稚園、小学校の頃から、交通マナーを教える	1	以前実験したオンデマンドバスの導入と活用	1
空き地を利用し、駐車場にする	1		

#### ●追加された主な意見

- ・民生委員のサポーターが必要(3) ・フリーマーケットで物々交換(1) ・若い人も集うコミュニケーションスペースを増やす(5)
- ・お昼が出るコミュニケーションの場(2) ・大和チケットのさらなる利用やPR(6) ・イベントは今も多いが、今後も続けたい ・にこにこ広場のPR(3)
- ・小学校の一部を地域の交流スペースとして有効活用する(4) ・敷地面積の下限規制(1) ・地域で使える駐車場など(小規模多機能)(3) など